

「私もソーシャルワーカーに」

社会福祉法人

板橋区社会福祉協議会

ぬくもりサービス

齋藤洋子

「私はソーシャルワーカー」と言えるようになりたいと思いながらその専門職にはなれずにいます。20年前放送大学で「生活と福祉」を専攻卒業後、仲村優一先生のゼミで「社会福祉研究会」の一員として福祉の現状等いろいろ教えていただきながら地域の福祉の調査をしました。当時のメンバーの数人がその後社会福祉士やケアマネージャーとして活躍しています。私は長く会社員として働いていましたのでそのまま仕事を続けながら別の方法で福祉にかかわりたいと思いました。その理由は大学の卒業研究に高齢者の自立について調査をしたので、自分の老後をしっかりとって安心したいと思ったからです。

おりしも区社協の在宅介護事業の発足時期にありました。ヘルパーの養成講座を修了し早速ヘルパーとして登録をしましたらすぐに活動する機会に恵まれました。会社が休みの土曜日だけのヘルパーになりました。ヘルパーをした時間を預託し、私の老後はその時間でお手伝いをお願いすることになるかもしれないと考えていました。

ところが1994年から検討され始めた介護保険制度は3年後の1997年には法が制定され2000年4月から施行されました。保険制度が検討され始めたことを知りませんでしたので、いきなり制度ができたように感じてびっくりしました。私の時間預託はお金になって振り込まれました。民間の介護事業者が増えて社協の在宅介護事業はどうなるのかと思っていましたが、介護保険が使えない分を介護することになりました。ヘルパーの仕事は日常生活のお手伝いですが、それぞれ自分なりの方法で暮らしていますのでいつもスムーズには始まりません。介護利用者の意思を最大限尊重することがヘルパーの仕事であり自立を助けることになると考えています。実際の仕事ではいろいろなことがありますので、そのことを頭の真中においてできるだけ長く続けていきたいと願っています。

私はソーシャルワーカーですとは言えませんが、日本ソーシャルワーカーの
会員として福祉の現状を知れるよう頑張りたいと思います。

